

中国情報（WTO/FTA・貿易・安全・その他）

2007年10月トウモロコシ市場観測情報については、中国農業部ホームページを通じ同年11月13日に発表されましたが、翌日になって同部ホームページ上から削除されたため、当機構としては、中国農業部によるその後の再発表に合わせるべく掲載のタイミングを図ってきたところです。しかし、当初の発表から1か月を経てなお再発表がないことや、発表内容が中国内外の関係機関の公表資料などにも掲載されていること等に鑑み、当機構としても「中国情報」の記事として掲載することとしました。

なお、この先、中国農業部から内容の変更等を伴う新たな発表があった場合には、事前の予告なしに本記事の内容について変更等を行うことがありますのでご留意願います。

2007年12月14日号

◎2007年10月トウモロコシ市場観測情報

【中国農業部】

中国農業部は先ごろ、2007年10月におけるトウモロコシ市場の観測情報について発表した。その概要は以下のとおりである。

1 トウモロコシ収穫は完了

10月下旬までに、全国各生産地におけるトウモロコシ収穫は完了した。気候条件については、今年は東北の生産地で比較的深刻な干ばつが発生し、一部ではトウモロコシの拔節（主茎の節が急伸すること）及び抽雄吐糸（雄穂が糸を吐いたように伸びること）が阻害され、実が小粒となって生産量を上げることができない状況となった。ただし、9月は天候がよく、光熱条件がトウモロコシの灌漿（結実期に植物の脈管を通して澱粉が送られること）に有利に働いた上、初霜の降りるのが例年に比べ遅かったこともあり、トウモロコシが十分に成熟するのに好都合となり、一部では干ばつによる影響が相殺されたところもあった。華北、黄淮（黄河・淮河流域）その他の生産地では、全体に気候条件がよく、トウモロコシの生長は前年並みもしくは前年を上回った。

2 輸出は大幅増、輸入は大幅減

海関統計によると、2007年9月のトウモロコシ輸出量は、前年同月比55.8倍増の38.4万トンとなった。1～9月の累計輸出量は、前年同期比99.7%増の453.1万トンとなった。また、1～9月の累計輸入量は、同83.2%減の1万トンとなった。2007年のトウモロコシ輸出量は、前年比307万トン増（63%増）の約500万トン、輸入量は2万トンと予測されている。

中国のトウモロコシの主要輸出相手国は韓国の296万トンで、総輸出量の65.4%を占めている。その他重要な輸出相手国としては、日本、マレーシア、インドネシア、イランなどがある。前年同期に比べ、中国から日本及びマレーシア向けの輸出量は倍以上増加し、韓国向け輸出は90%増となった。輸出地区は、内蒙古自治区及び東北3省に集中している。

3 世界のトウモロコシ生産量は大幅増、需給の逼迫はやや改善

米国農務省（USDA）の10月の予測によると、2007/08年度の世界のトウモロコシ生産量は前年度を9.3%上回り、新記録となる7.69億トンと予測されている。うち米国は、26.4%増とみられている。世界のトウモロコシ消費量は引き続き増加し、前年度比5.9%増の7.64億トンとなると見込まれている。数年来、全世界のトウモロコシ需給は、需要が生産を上回る様相を示していたが、生産量の増加が消費の増加を上回ることから、需給の矛盾はやや改善に向かっている。トウモロコシの期末在庫量は、5.1%増の1.1億トン、在庫／消費比は14.5%と見込まれているが、いまだ安全水準を下回っている。

貿易面では、2007/08年度の世界のトウモロコシ輸出量は、前年度比0.2%減の9,109万トンと予測されている。うち米国の輸出量は5,969万トンで、世界の輸出量の65.5%を占めている。同じく輸入量は、1.5%増の9,008万トンと予測されている。主要輸入国は、日本が1,610万トンと世界の輸入量の17.9%を占め、第一位とされる。メキシコは輸入が1,020万トンまで増加し、同じく11.3%を占めて第二位、韓国は輸入量が910万トンで同10.1%となり、第三位に後退するとみられている。

4 国内の生産地価格は小幅な下落、消費地価格はやや上昇

新収穫のトウモロコシ（以下「新トウモロコシ」）が市場に流通し始め、国内市場は短期的には供給圧力が増大した。9月下旬に国家発展改革委員会が公表した「トウモロコシの高度加工業の健全な発展の促進に関する指導意見」（以下「指導意見」。記者注：この指導意見をもって、飼料用トウモロコシの優先的確保を基本原則とする方針が明らかにされた）は、トウモロコシの高度加工の発展を適度にコントロールしている。供給の増加と（指導意見などによる）需要抑制の状況の下、トウモロコシの主産地価格は小幅ながら下落した一方、消費地における価格はやや上昇したものの、国内のトウモロコシ価格は、全体として基本的には安定的であった。10月の生産地における平均卸売価格は1トン当たり1,538円で、前月比0.5%安、前年同月比20.2%高となった。うち東北の産地は前月並みだ

が、前年同月比では16.4%高となった。華北・黄淮地区では前月比0.7%安、前年同月比22.5%高となった。消費地における平均卸売価格は同1,780円で、前月比0.8%高、前年同月比20.5%高となった。

新トウモロコシの買付市場では、東北の生産地における貿易商及び加工企業が買い付けに慎重で、農家の売り惜しみ心理もあって買付量は比較的小さく、価格はやや上昇した。華北・黄淮地区では、市場流通量が次第に増加して価格が下落したものの、前年同期に比べると大幅に上昇した。10月下旬における吉林省の新トウモロコシの買付価格は、50kg当たり51～54元（水分含有量32～36%）で、前年同期に比べ3～5元上昇した。遼寧省では58～60元（同33%）、山東省は78～79元（同16～17%）、河南省は71～73元（同15～17%）、河北省は76元となった。新トウモロコシの出回り量が日々増加するのに伴い、市場供給圧力は引き続き増加し、価格下落の可能性があるものの、飼料需要及び工業用消費が増加しており、価格が下落する余地はそれほど大きくはないとみられている。

5 国際価格は引き続き上昇、内外価格差が拡大

2007年10月にU S D Aによる世界のトウモロコシ生産量の予測が下方修正され、来年の米国のトウモロコシ作付面積が8,700万エーカーへと減少すると予測されたことから、トウモロコシの国際価格は引き続き上昇した。10月の米国メキシコ湾の2号黄色トウモロコシの平均港湾価格（本船渡し価格＝F O B価格）は1トン当たり1,226元、シカゴの先物価格は同1,049元で、それぞれ前月比2.1%高、0.7%高、前年同月比10.0%高、9.4%高となった。

トウモロコシの国際価格上昇や国際海上輸送費の高騰により、トウモロコシ価格は1トン当たり120ドルに接近しているが、国内港価格が下落したことから、トウモロコシの内外価格差は拡大した。広州の黄埔港では、10月の米国産トウモロコシの通関渡し価格（Duty Paid：C I F＋関税等）が、同時期の国産トウモロコシの国内港価格よりも1トン当たり801元高くなり、内外価格差は前月に比べ同211元拡大した。